

私たちの生活と メディア・リテラシー

諸 橋 泰 樹
もろ はし たい き

フェリス学院大学文学部コミュニケーション学科教授。
「男女共同参画の視点とメディア」を専門とする。
自治体での研修、講演、計画策定等に多数かかわる。



1 メディア漬けの社会では、 主体的に接しないと^{だま}騙される

メディアとは、人と人との間にあって人と人をつ結びつけ、情報を伝達する「媒体」のことです。私たち現代人はテレビ、新聞、ラジオ、雑誌、本といったマス・メディアや、インターネットによるサイトやブログにアクセスするためのパソコン、携帯電話などの電子メディアに日常的に囲まれ、そこから発せられる情報を読んだり、見たり、聞いたり、あるいはこちらから情報発信したりなど、コミュニケーションをしながら生活しています。

こういったマス・メディアや電子メディアは、仕事や学業、家庭生活や地域生活に不可欠なものであり、また知識の取得、娯楽のためにも今やなくてはならない存在になっています。実用的なメリットのみならず、政治、経済、社会、自然や環境のことを知り、私たちが平和で穏やかな世界をつくる担い手となるため、また文化を発展させるため、さらには民主主義の実現のために主権を行使し、国家や権力を監視するためにも、メディアは重要な道具になっていることは言うまでもありません。新聞やテレビがなければ、私たちは知識欲や好奇心を満たされることがなく、事件・事故に関する教訓を得ることもなく、貧困について考えたり、日本の米軍基地の75%が沖縄に集中していることも知らず、地球温暖化防止のために自分が何かを始めることもなかったでしょう。

しかしながら一方で、メディアが報じる情報には、虚実入り混じっている現実があります。また巧みな演出によって、私たちの意識や行動が誘導されている側面があります。メディアの取り上げることを鵜呑みにする人は少なくありません。

したがって、「メディアの使いこなし方」とその「情報の読み方」が現代では大切になってきます。ただ漫然と、受け身的にメディアに接しているだけでは、あるいは依存してしまえば、メディアという道具に振り回さ

れ、膨大な情報に振り回されることになりかねず、私たちは「考えること」をしなくなってしまうでしょう。主体的なメディア利用と情報の的確な取捨選択能力、内容に対する判断力が必要です。

「リテラシー」とは元来、識字能力、つまり読み書き能力のことを意味しますが、メディア・リテラシーとは、メディアを能動的・批判的に読み解き、自ら情報発信する能力を意味することばで、誰もが身につけなければいけない現代人^{ひつす}必須の能力なのです。

2 メディアは社会的な駆け引きや せめぎ合いによってつくられたもの

メディアは、主として大きな組織、権限のある人や専門的スキルのある人たちによってつくられており、企画から素材選び、取材、撮影や記事書き、編集や加工、送出に至るまでたくさんの人と複雑なシステムを経て^{もと}人びとの許に届けられます。もっぱら「受け手」と呼ばれる私たち視聴者・読者・ユーザー（オーディエンス）は、できあがった番組・記事・サイトなどをそのまま「正しいもの」として受け取っているのが普通です。

ところが、テレビ局や制作プロダクションの人、新聞記者、雑誌記者やフリーのライター、編集者、自分のホームページを公開している「送り手」と呼ばれる人たちは、イデオロギーや嗜好など、みな個人の「主観」を持っています。同時に、マス・メディアの人たちは組織の人間でもあり、賃金や下請け料をもらっていますから、会社に従わなければいけないという「組織の論理」があります。また、ほとんどのマス・メディア企業は商行為を行っていますので、番組や新聞、雑誌などが売れる・売れないといった視聴率や販売部数などの「経済の論理」、その経済を支えている広告主（スポンサー）の意向も、大きく情報内容を左右します。さらには、政権をはじめとする権力が、自分たちに有利なようにメディアをコント